

開設科目名	科目：生活と観光			担当教員：吉兼秀夫			
開講期	後期	授業方法：講義	単位数：2単位		週時間：2時間		
対象学生	1回生	科目番号：050620					
授業の概要	<p>観光は日常生活を離れたところで行う体験である。それは日常生活を脱し、非日常、異日常生活に入り、再び日常生活に戻る過程と考えられる。多くの人は観光に日常生活で体験できないことを期待する。ところで、観光行動自体が非日常であった時代と変わり、生活風景も変わった現在、観光行動自体も個人にとって決して晴れがましい大イベントではなくなった。観光はいつも非日常を訪ね、体験する活動だけでなく、国内にしる、海外にしる、異日常を訪ねる日常的行為にもなった。異日常、つまり人様の日常の生活ぶりを垣間見る観光が登場してきた。本講義では近年の観光動向から観光対象としての生活風景の意味を明らかにし、日常の生活空間、生活文化を大切にすることで観光対象としても魅力的な活動風景を提供しようとしているエコミュージアムの概念と実践例をはじめとする町ぐるみ観光について考える。</p>						
学習・教育目標	<p>本講義の学習を通して、地域が自らの規範に基づいて観光まちづくりを行う自律的観光のあり方について理解し、観光を通して身近な生活風景、生活文化を再評価し、表現する方法を身につける。また、奈良女子大学周辺地域を新たな観光対象の視点で捉え、観光を通じたまちづくりへと展開していく能力を身につける。</p>						
キーワード	自律的観光 エコミュージアム 観光まちづくり 生活ぶり観光						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観光立国宣言と観光まちづくり 2. 観光における生活とは 3. オルタナティブツーリズムと自律的観光 4. 観光まちづくりの事例 観光地はいかにつくられるか 5. 持続可能な観光地づくり(エコツーリズム) 6. 生活文化を体験する観光(グリーンツーリズム) 7. 環境文化を学ぶ観光(ヘリテージツーリズム) 8. 地域をまるごと味わう生活ぶり観光のために 9. エコミュージアムの概念 10. エコミュージアムの海外事例 11. エコミュージアムの国内事例 12. キャンパスを知る、キャンパスを遊ぶ 13. 大学周辺の魅力を知る。大学周辺で遊ばせる 14. 生活と観光 まとめ 						
教科書	特に指定しない						
参考書	「国際観光学を学ぶ人のために」(世界思想社)						
成績評価方法	<p>授業中に出す課題及び宿題として出す課題の評価を中心に成績を評価する。講義の理解とともに自らの目で身近な生活風景をみつめるまなざしとそれを他人に分かるように表現する能力を評価の対象とする。</p>						
評価割合	定期試験(中間・期末試験)	小テスト・授業内レポート	宿題・授業外レポート	授業態度・授業への参加度	受講者の発表(プレゼン)	出席	合計
	%	20%	30%	10%	10%	30%	% 100%
備考							